

早稲田大学 政治経済学部 総合問題(日本語セクション) 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	120分(日本語による長文読解1題+英語による長文読解1題+英作文1題)
特徴・その他	選択問題6問、記述問題(200字以内)1問。本文の中に6つの図と4つの表が挿入されており、大学側が事前に出していたサンプル問題に概ね則った形式と言える。選択問題は空欄補充型を中心として、表のデータから適切な散布図を選択する問題等も出題された。記述問題はテーマとしては小論文で頻出のものと言えるが、200字以内という字数にまとめるところに工夫が必要である。試験時間は適当であると思われる。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	「少子高齢化」をテーマとした図表入り文章の問題	<p>1：判断が難しい問題であるが、諸外国での「女性の社会活動への参加機会増→生涯出生率低下」を検証するための話であることと、図4が全体だけでなく「都道府県別の」増減変化を示したものであることに注目すればよい。空欄①直前の全体傾向は、ここでは譲歩部分と踏まえるべきである。これらを踏まえて考えるとニが正解となる。管理職を増やすとか、有配偶率を高めるとか、不妊治療の助成金などの対策は、正誤を決める判断材料としては決定打に欠ける。</p> <p>2～5：図表の読み取りが正しくできれば問題無く正解できるであろう。ただし3は設問にもあるように表2が「多重選択方式」である点に注目すること。</p> <p>6：選択肢の内容が正しいかどうかではなくて、それが「図表から判断できる事柄か」に注目。ロは表3を判断材料とできるが、それ以外は根拠が無い。</p> <p>7：小論文で出題されれば800字などの条件が課されるテーマを200字以内に縮約するのが少々困難だが、端的で明快な表現を選べば、対応は可能である。理由説明を論理的に書くことが鍵と言える。</p>	やや易

〔総合コメント〕

テーマ・文章ともに特に難解な部分も無く、図表も本文の流れにそった適切なものが適宜挿入されている。本文に図表等の資料が挿入されたり、本文の内容に合わせた自論展開型の記述問題が出題されたりという形式は本来共通テスト等で出題を予想されていた思考力・判断力・表現力を意識したものと思われる。加えて本問では、図表等の根拠を基に論理的に世相を分析し、自分達がとるべき道を考えていくという、「大学の授業とはこういうものだ」というメッセージが込められているように感じる。早稲田に限らず、今後はこのような問題の出題が増えていくと思われる。